

建築教育ニュース

1994. 11

東日本建築教育研究会

## 目 次

1. 会長あいさつ …………… 会 長…吉村 義弘… 1
2. 平成5年度事業および会計（決算）報告 …………… 事 務 局… 3
3. 平成6年度事業計画・会計（予算）および役員名簿 …………… 事 務 局… 5
4. 平成6年度総会・研究協議会報告 …………… 山形県立米沢工高…長岡 信浩… 9
5. 夏期研究協議会に参加して …………… 豊橋工高…加藤 紘三…12
6. 製図分科会報告 …………… 主査 東京工大附属工高…古賀 昌之…14
7. 構造分科会報告 …………… 主査 田無工高…本間 正明…17
8. 計画分科会報告 …………… 主査 小田原城北工高…大庭 孝雄…21
9. 施工分科会報告 …………… 主査 神奈川工高…山崎 敏弘…24
10. 製図コントロール運営委員会報告 …………… 委員長 蔵前工高…土田 裕康…27
11. 資格取得検討委員会報告 …………… 委員長 宇都宮工高…岡田 義治…31
12. 岩手県工業高等学校建築教育の現況 …………… 久慈工高…外里 昌治…35
13. 千葉県工業高等学校建築教育の現況 …………… 市川工高…佐藤 哲…37
14. 富山県工業高等学校建築教育の現況 …………… 富山工高…森田 真正…39
15. 愛知県工業高等学校建築教育の現況 …………… 一宮工高…寺島 豊…41
16. 事務局ニュース・報告 …………… 事務局長 葛西工高…松井 貞二…43

あとがき

# 1. あいさつ

会長 東京都立葛西工業高等学校長

吉村 義弘

奈良時代に使われた天平尺は、一尺が29.6cm。飛鳥時代に法隆寺を建てた高麗尺で35.5cmといわれています。古代中国では王朝が変わるごとに度量衡も変わったと聞きます。大和の平安京の造営にもその影響を受けたことでしょう。

現在は長さを表すのにすべてメートルが基準。私が記憶している尺貫法が残っていた時代でも、一尺の物差しは二通りありました。曲尺なら30.3cm、鯨尺なら37.9cmと違っていました。

違った物差しで人や生活を測るのですから少々ややこしくなりますが、そこに人の英知とロマンを感じてしまうのですから不思議でもあります。

平安京は中央の朱雀通りをはさんで東側は中国の洛陽風に、西側は長安風に作られたと聞きます。今年はこの地で全国産業教育フェアが開催されました。建都1200年の平安京は、どの様な物差しを使うのでしょうか。

去る6月16日(木)～17日(金)の両日、平成6年度第44回東日本建築教育研究会総会・研究協議会が山形県天童市において文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官岩本宗治先生ほか多数のご来賓をお迎えして盛大に開催されました。

緻密な計画、流れるような運営に感服すると共に運営に携わっておられる先生方の、温かい対応に感涙を覚えるほどでありました。

熱心な研究協議、素晴らしい講演、壮大さと優雅を兼ね備えた山寺地区の研究視察など地域に根差した文化に触れ、山形が心にしみた二日間でもありました。

山形県の皆様が、長時間をかけて綿密に計画をねり、一糸乱れぬ運営をしていただきましたことに心から感謝申し上げます。

さて、この度「建築施工技術者」試験の実施につきまして建設省へ要望書を提出することになりました。平成7年度から本格的に実施されるものと期待されます。

要望書を提出することができるようになるまでには多くの方々のご苦勞がありました。

まず、資格申請の必要があるかどうか建築のある全国の高校へアンケート調査。その結果97%の賛同を得てゴーサイン。

建設省では資格申請者は全国規模の団体の申請でないといけないとのことでした。そこで、西日本工高建築連盟の先生方と相談の上、「全国高等学校建築教育連絡協議会」(以下 ここでは全建教と呼ぶ)を結成することになりました。

担当の先生方の懸命な努力によって全建教の姿が完成。平成6年9月1日を発足の日と致しました。

この全建教を母体として全国工業高等学校長協会（全工協）にお願いし、全工協から建設省に資格設置を要望することになります。

この間、十数回に及ぶ建設省、全工協との折衝と指導、業界への陳情、他の地域の建築教育研究会との打ち合わせなどが繰り返されました。西日本と東日本がお互いに打ち合わせのため訪問も致しました。

今後は、「2級建築施工管理技士」試験程度の内容について模擬テストなどを行い、試験の準備にかかる事が大切となってくるものと考えられます。

在学中に資格を取得できる希望が適えられそうになってきたことを喜びつつ、次のステップへの準備をも怠ることなく、随所に働きかけて行きたいものであります。

最後に、ここに至るまでに、ご指導いただいた関係諸団体、事務を進めてくださった担当の皆様、無理に役員などをお願いしました方々に心から御礼申し上げます。

社会はますます複雑になって参ります。人への評価も単純なものでなく、尺貫法の二つ程度の物差しをはるかに凌駕して豊かな人格、個性、能力、知力、体力、免許資格など多くの物差しで測られるようになりました。また、いろいろな尺度で測った個性が尊ばれるようにもなりました。

今後とも建築を通じた活力ある人材の育成と東日本建築教育研究会の一層の発展を目指して微力を注ぎたいと存じます。皆様方のご支援を切にお願い申し上げます。

## 2. 平成5年度 事業報告

### 1 総会・研究協議会

期 日：平成5年6月10日（木）～11日（金）

会 場：「大洗パークホテル」 TEL 0292-67-2171

1) 総会……………第1日（6月10日）

2) 研究協議会（分科会）

ア) 製図分科会： 共通テーマ：「課題研究」についての情報交換

イ) 計画分科会： i) 各分科会におけるテーマ・指導案または実践内容

ウ) 構造分科会： について

エ) 施工分科会： ii) 「課題研究」実施上の問題点について

3) 研究協議会（全体会）……………第2日（6月11日）

研究発表1：専攻科に関する実践報告

甲府工高 教諭 天野 喜幸

甲府工高 教諭 辻 好文

研究発表2：課題研究の実践報告

宇都宮工高 教諭 岡田 義治

4) 研究視察

「好文亭」（借楽園）、「弘道館」

### 2 夏研究協議会

内 容：「振動模型の製作とそれを利用した模型実験」の実技講習

期 日：平成5年7月27日（火）・28日（水）

会 場：都立葛西工業高等学校

参加人数： 51名

### 3 常任理事会・委員会等（年5～7回）

1) 常任理事会：会長，副会長，事務局長，分科会主査，代表理事若干名

2) 主 査 会：会長，副会長，分科会主査，事務局長

3) 各 分 科 会：分科会主査，学校代表委員若干名

4) 教材委員会：委員長，副会長，事務局長，分科会主査

5) 製図コンクール運営委員会：委員長，副会長，委員若干名

6) 工業標準テスト問題作成委員：主査，委員4名（小石川工，蔵前工，  
春日部工，横浜工）

7) 編集委員会：委員長，副会長，委員若干名

4 刊行物……………建築教育ニュース 1993年号（11月発行）

会員名簿発行（6月）

5 製図コンクール（第12回） 平成5年11月

# —平成5年度 会計決算報告—

下記のとおり報告いたします。

会 長 吉 村 義 弘  
会 計 事 務 局

## 1. 収 入 額

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘 要
会 費	720,000	753,000	15,000	147校分
雑 収 入	52,718	51,108	-1,617	助成金, 銀行利子
印 税	100,000	130,441	30,441	基礎問題, 図集等
繰 越 金	357,282	357,282	0	
合 計	1,230,000	1,273,824	43,824	

## 2. 支 出 額

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘 要
1) 事 業 費	800,000	678,765	201,235	
総 会 費	340,000	94,740	245,260	協議会補助, 本部経費等
資 料 費	180,000	224,025	-44,025	資料, ニュース印刷費等
講習会補助	60,000	60,000	0	夏期講習会(構造)補助
出張補助費	120,000	120,000	0	西日本, 北海道出張補助
分科会費	180,000	180,000	0	4分科会 各45,000円
2) 運 営 費	345,000	354,820	-9,820	
役員会議費	30,000	30,000	0	常任理事会・主査会等
通 信 費	125,000	134,820	-9,820	総会通知, ニュース発送等
雑 費	25,000	25,000	0	事務用品代
事 務 費	15,000	15,000	0	事務局運営費
名 簿 費	150,000	150,000	0	名簿作成費
3) 予 備 費	5,000	0	5,000	
4) 合 計	1,230,000	1,033,585	196,415	

3. 差引残高  $1,273,824 - 1,033,585 = 240,239$ 円 収入増 43,824円

4. 次年度繰越  $240,239$ 円 支出減 196,415円

会計監査の結果, 収支, 帳簿等相違ないことを認めます。

平成6年3月31日

会計監査 松田 紘  
田島 昇

### 3. 平成6年度 事業計画

#### 1 総会・研究協議会

期 日：平成5年6月16日（木）～17日（金）

会 場：「滝の湯ホテル」 TEL 0236—54—2211

1) 総会……………第1日（6月16日）

2) 研究協議会（分科会）

ア) 製図分科会： 共通テーマ

イ) 計画分科会： 「新教育課程における各科目の指導内容の検討」

ウ) 構造分科会：

エ) 施工分科会：

3) 研究協議会（全体会）……………第2日（6月17日）

研究発表：「地方における高校建築教育に関する報告」

山形工高 教諭 河田 徹

山形工高 教諭 叶内 克成

講演会：「風土と建築」

本間利雄設計事務所 代表取締役 本間 利雄

4) 研究視察

「山寺」

#### 2 夏期研究協議会

内 容：「間伐材を使用したログテーブルの製作」の実技講習会

期 日：平成6年7月26日（火）～28日（木）

会 場：私立関東第一高等学校寮「白銀山荘」

新潟県南魚沼郡六日町大字余川 TEL 02577—2—2493

#### 3 常任理事会・委員会等（年5～7回）

1) 常任理事会：会長，副会長，事務局長，分科会主査，代表理事若干名

2) 主査会：会長，副会長，分科会主査，事務局長

3) 各分科会：分科会主査，学校代表委員若干名

4) 教材委員会：委員長，副会長，事務局長，分科会主査

5) 製図コンクール運営委員会：委員長，副会長，委員若干名

6) 工業標準テスト問題作成委員会：主査，委員4名（蔵前工，小石川工  
大宮工，神奈川工）

7) 編集委員会：委員長，副会長，委員若干名

8) 資格取得検討委員会：委員長，副会長，分科会主査，事務局長，委員若干名

4 刊行物……………建築教育ニュース 1994年号（11月発行予定）

会員名簿発行（6月予定）

5 製図コンクール（第13回） 平成6年11月

# —平成6年度 予 算—

平成6年4月1日

## 1. 取 入 額

項 目	予 算 額	摘 要
会 費	725,000	145校分
雑 収 入	50,761	助成金, 利子
印 税	120,000	基礎問題, 図集等
繰 越 金	240,239	平成5年度繰越金
合 計	1,136,000	

## 2. 支 出

項 目	予 算 額	摘 要
1) 事 業 費	778,000	
総 会 費	150,000	協議会補助, 本部経費等
資 料 費	223,000	総会資料, ニュース等印刷費
講習会補助	60,000	夏期講習会(製図)補助
出張補助費	120,000	西日本, 北海道出張補助
分科会費	225,000	4分科会・検討委 各45,000円
2) 運 営 費	353,000	
役員会議費	30,000	理事会, 主査会等
通 信 費	133,000	総会通知, ニュース発送通信費等
雑 費	15,000	事務用品代
事 務 費	25,000	事務局運営費
名 簿 費	150,000	名簿作成費(不足分は広告費で支出)
3) 予 備 費	5,000	
4) 合 計	1,136,000	



# —平成6年度 役員名簿—

- |           |                    |                     |              |
|-----------|--------------------|---------------------|--------------|
| 1. 会 長    | 東京都立葛西工業高等学校       | 校長                  | 吉村 義弘        |
| 2. 副 会 長  | 千葉県立市川工業高等学校       | 教諭                  | 佐藤 哲         |
|           | 東京都立蔵前工業高等学校       | 教諭                  | 土田 裕康        |
| 3. 事務局長   | 東京都立葛西工業高等学校       | 教諭                  | 松井 貞二        |
| 4. 会 計    | 東京都立葛西工業高等学校       | 教諭                  | 前田 潔         |
| 5. 会計監査   | 千葉県立市川工業高等学校       | 教諭                  | 高橋 義治        |
|           | 東京都立小石川工業高等学校      | 教諭                  | 松田 紘         |
| 6. 常任理事   | 吉村 義弘 (会長)         |                     |              |
|           | 佐藤 哲 (副会長・千葉・市川工)  | 土田 裕康 (副会長・蔵前工)     |              |
|           | 古賀 昌之 (製図主査・東工大附工) | 大庭 孝雄 (計画主査・小田原城北工) |              |
|           | 本間 正明 (構造主査・田無工)   | 山崎 敏弘 (施工主査・神奈川工)   |              |
|           | 前田 潔 (会計)          | 松井 貞二 (事務局長・葛西工)    |              |
|           | 間宮 靖郎 (墨田工)        | 大橋 正俊 (小石川工)        |              |
|           | 荒井 功男 (日工大付東京工)    | 大間 俊彦 (関東第一高)       |              |
|           | 安藤 允浩 (安田学園)       | 市毛 輝男 (昭和第一学園)      |              |
|           | 高崎 格 (北海道・札幌工)     | 本田 友一 (埼玉・川越工)      |              |
|           | 岡田 義治 (栃木・宇都宮工)    | 天野 喜幸 (山梨・甲府工定)     |              |
|           | 江原 哲二 (群馬・藤岡工)     | 平野 和成 (静岡・島田工)      |              |
| 7. 都道県理事  |                    |                     |              |
| 北海道       | 山本 悦徳 (名寄工)        | 北海道                 | 高崎 格 (札幌工)   |
| 青森        | 伊藤 勝敏 (弘前工)        | 秋田                  | 照井 由郎 (横手工)  |
| 岩手        | 外里 昌治 (久慈工)        | 山形                  | 長岡 信浩 (米沢工)  |
| 宮城        | 平 孝幸 (仙台工)         | 福島                  | 渡部 泰博 (福島工)  |
| 栃木        | 増淵 政幸 (真岡工)        | 茨城                  | 江口 功 (大宮工)   |
| 群馬        | 岩崎 峻 (桐生工)         | 埼玉                  | 本田 友一 (川越工)  |
| 千葉        | 佐藤 哲 (市川工)         | 東京                  | 松井 貞二 (葛西工)  |
| 神奈川       | 山崎 敏弘 (神奈川工)       | 山梨                  | 天野 喜幸 (甲府工定) |
| 長野        | 大脇 洋三 (長野工)        | 新潟                  | 伊賀 一生 (新発田南) |
| 富山        | 森田 眞正 (富山工)        | 石川                  | 布施 東雄 (羽咋工)  |
| 福井        | 谷 康博 (武生工)         | 静岡                  | 平野 和成 (島田工)  |
| 愛知        | 寺島 豊 (一宮工)         | 岐阜                  | 椿井 敏夫 (岐阜西工) |
| 8. 各分科会委員 |                    |                     |              |
| 1) 製図分科会: | 主査・古賀 昌之 (東工大附工)   |                     |              |
|           | 土田 裕康 (蔵前工)        | 福島                  | 勝 (日工大付東京工)  |
|           | 塩沢 泰 (関東第一高)       | 酒井                  | 健一 (向の岡工)    |
|           | 菊池 貞介 (市川工)        | 田口                  | 学 (向の岡工定)    |
|           | 角田 勝男 (神奈川工)       | 長島                  | 佳久 (春日部工)    |
|           | 金井 孝雄 (高崎工)        | 小沢                  | 宏 (墨田工)      |
|           | 増淵 政幸 (真岡工)        |                     |              |

- 2) 計画分科会：主査・大庭 孝雄（小田原城北工）
- |                |              |
|----------------|--------------|
| 門馬 進（東工大附工）    | 大間 俊彦（関東第一高） |
| 大橋 正俊（小石川工）    | 池田 健司（大宮工定）  |
| 田中 良司（大宮工）     | 中島 久男（鶴見工）   |
| 富澤 宏之（高崎工）     | 高崎 和久（藤沢工）   |
| 成田 仲生（葛西工）     | 佐藤 弘隆（横浜工定）  |
| 岩上 成輝（川崎総合科学高） |              |
- 3) 構造分科会：主査・本間 正明（田無工）
- |              |             |
|--------------|-------------|
| 佐藤 哲（市川工）    | 松井 貞二（葛西工）  |
| 栗原 博（蔵前工定）   | 榎本 吉晃（安田学園） |
| 亀山 和由（関東第一高） | 西村 文雄（川越工）  |
| 益野 英昌（市立仙台工） | 福住 英毅（神奈川工） |
| 斉藤 延夫（宇都宮工）  | 今井 賢治（前橋工）  |
- 4) 施工分科会：主査・山崎 敏弘（神奈川工）
- |                |              |
|----------------|--------------|
| 堀口 武（武蔵越生高）    | 小池 逸朗（北富士工）  |
| 村上 竹久（藤沢工）     | 千葉 一雄（小石川工）  |
| 塩山 昇（熊谷工）      | 高橋 康宏（田無工）   |
| 内藤美雪丸（日工大付東京工） | 田島 昇（大宮工）    |
| 丸山 悟（葛西工）      | 樋口 元朗（高崎工定）  |
| 小嶋 計一（宇都宮工）    | 田辺 登（昭和第一学園） |
9. 教材委員会：委員長・佐藤 哲（副会長）
- |             |             |
|-------------|-------------|
| 土田 裕康（副会長）  | 松井 貞二（事務局長） |
| 古賀 昌之（製図主査） | 大庭 孝雄（計画主査） |
| 本間 正明（構造主査） | 山崎 敏弘（施工主査） |
10. 編集委員会：委員長・大間 俊彦（関東第一高）
- |               |            |
|---------------|------------|
| 遠藤 勇（日工大付東京工） | 鈴木 健（葛西工）  |
| 古賀 昌之（東工大附工）  | 菊池 貞介（市川工） |
11. 製図コントロール運営委員会：委員長・土田 裕康（蔵前工）
- |                |               |
|----------------|---------------|
| 塩沢 泰（関東第一高）    | 古賀 昌之（東工大附工）  |
| 酒井 健一（向の岡工）    | 福島 勝（日工大付東京工） |
| 角田 勝男（神奈川工）    | 菊池 貞介（市川工）    |
| 金井 孝雄（高崎工）     | 長島 佳久（春日部工）   |
| 田口 学（向の岡工定）    | 小沢 宏（墨田工）     |
| 大間 俊彦（関東第一高）   | 丸山 悟（葛西工）     |
| 福住 英毅（神奈川工）    | 西村 文雄（川越工）    |
| 小池 逸郎（北富士工）    | 増淵 政幸（真岡工）    |
| 岩上 成輝（川崎総合科学高） |               |
12. 資格取得検討委員会：委員長・岡田 義治（宇都宮工）
- |             |             |
|-------------|-------------|
| 佐藤 哲（副会長）   | 土田 裕康（副会長）  |
| 松井 貞二（事務局長） | 古賀 昌之（製図主査） |
| 大庭 孝雄（計画主査） | 本間 正明（構造主査） |
| 山崎 敏弘（施工主査） | 長島 佳久（春日部工） |
| 高橋 義治（市川工）  | 間宮 靖郎（墨田工）  |

## 4. 平成6年度 総会・研究協議会報告

山形県立米沢工業高等学校 長岡 信浩

平成6年度東日本建築教育研究会総会・研究会が6月16～17日の2日間にわたり山形県天童温泉「滝の湯ホテル」を会場として、文部省岩本宗治調査官をはじめ来賓・会員合わせて191名の参加により盛会のうちに開催された。

理事会の後、総会が開催され阿部孝実行委員長・吉村義弘会長の挨拶に始まり、大会実施要項に従い議事案件が審議され承認された。

分科会では共通テーマとして新教育課程における各科目の指導内容の検討がなされ、その後の全体会では分科会・各委員会からの報告を受けて終了した。

夕刻には教育懇談会が開かれ、和やかな中にも建築教育の情報交換などもなされ第一日の日程を滞りなく終えた。

二日目は山形工業からの研究発表の後、「風土と建築」と題した本間利雄氏の講演が行われた。

文部省岩本宗治教科調査官及び県教育庁高校教育課佐藤義雄指導主事から講評・指導助言をいただき、閉会した。

午後からは「閑さや岩にしみ入る蟬の声」の句で知られる山寺に向かった。猛暑の中、千段余りの石段を昇りながら堂宇の視察、眼下には講演者が設計担当した自然の中にやさしく溶け込んだ「風雅の里」も見ていただいた。

二年余りをを準備に費やした研究会が会員の皆様はもとより協賛企業・関係各位のご協力により、無事終了できましたことを感謝申し上げます、報告といたします。

期 日：平成6年6月16日（木）～17日（金）

会 場：山形県天童温泉 「滝の湯ホテル」

### 日程：第1日 6月16日（木）

理事会 10：30～12：00

〔1〕開会式 13：00～13：40

- |                 |           |       |
|-----------------|-----------|-------|
| (1) 開会のことば      | 鶴岡工業高等学校長 | 石川 正義 |
| (2) 山形大会実行委員長挨拶 | 米沢工業高等学校長 | 阿部 孝  |
| (3) 挨拶          |           |       |

東日本建築教育研究会会長	吉村 義弘
山形県教育委員会教育長	佐藤 進

(4) 来賓祝辞

文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官	岩本 宗治
山形県産業教育振興会理事長	石川 堯
全国工業高等学校長協会理事長	渡邊 光男
西日本工高建築連盟代表	波多野泰之祐

(5) 来賓紹介

〔2〕 総 会 13:40~14:30

(1) 議長選出

吉村 義弘

(2) 議 事

ア 平成5年度事業報告及び決算報告

イ 会計監査報告

ウ 役員改選

エ 平成6年度事業計画及び予算案審議

オ その他

(3) 本部・事務局連絡

副会長赤地龍馬先生へ感謝状贈呈



〔3〕 研究協議会（分科会） 14:40~16:10

共通テーマ「新教育課程における、各科目の指導内容の検討」

製図分科会：主査 古賀 昌之

計画分科会：主査 大庭 孝雄

構造分科会：主査 本間 正明

施工分科会：主査 山崎 敏弘

〔4〕 研究協議会（全体会・分科会報告） 16:30~17:30

(1) 分科会報告

製図・計画・構造・施工の各主査より協議内容の報告が行われた。

(2) 委員会報告

教材委員会

編集委員会

製図コンクール運営委員会

資格取得検討委員会

〔5〕 展 示

東日本建築教育研究会製図コンクール

金賞受賞作品

山形県建築士会製図コンクール

最優秀作品



〔6〕 教育懇談会 18:30~20:30

日程：第2日 6月17日（金）

〔1〕 研究協議会（全体会・研究発表） 9:00~9:40

研究発表

「地方都市における建築教育に関する報告」

発表者 山形工業高等学校全日制 叶内 克成

河田 徹

質疑応答

〔2〕講演会 9:40~10:50

演題「風土と建築」

講師 本間利雄設計事務所+土地環境  
計画研究室

代表取締役 本間 利雄

新聞や「新建築」に建築の論壇が掲載され、専門誌と一般誌でありながら従来流れている建築の方向を厳しく批判していることで一致している。

私も最近になりその忘れていたものに気づき作品は大きく変わってきている。作品を変えるきっかけは屋根にあり、感情風土のつながりを表現できる部分である。

そのポイントは屋根の軸線にあり建物の向きの捕らえ方であると考え。例えば南向きは原則であるが芸術工科大学も西向きではあるし、特に福島の大内宿などはきれいな町並みで軸線が揃っているが集落全体の軸がありその敷地風土にあった軸線となっている。

〔3〕講評 11:00~11:30

文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官 岩本 宗治

現在教育課程も実施段階に入り創意工夫が大変必要になる時期にきている。

昨日は各分科会から実践上の課題としてテーマがでてきている。立派な教育展開ができるようによろしくお願ひしたい。

山形工業高校の報告は大変立派であった。同校は昨年から教育課程研究指定校となっており来年2月の発表を期待している。

日本もヨーロッパと同じように資格社会になってきており、工業教育の継続教育が重要視されるなかで文部省では専攻科の充実を考えている。

山形県教育庁高校教育課指導主事 佐藤 義雄

建築教育の質と感性について、物に感謝することについての話しがあった。

〔4〕閉会式 11:30~11:45

謝辞

東日本建築教育研究会会長 吉村 義弘

次期開催県代表挨拶

千葉県立東総工業高等学校長 大仁田拓三

閉会のことば

山形大会実行委員長 阿部 孝

〔5〕昼食

〔6〕研究視察 12:15~15:00

「山寺」

〔7〕解散 JR山形駅 15:00



## 5. 夏期研究協議会に参加して

愛知県立豊橋工業高等学校 教諭 加藤 紘三

平成6年度東日本建築教育研究会夏期研究協議会が、7月26日、27日、28日の3日間、新潟県六日町にある関東第一高等学校の白銀山荘において開催されました。今年度は製図分科会の主催で「ログハウスの現状とログテーブルの製作」という内容で行われました。私事で恐縮ですが、自宅の新築が11年前でした。次の目標に、ログハウスを自分の手造りで建てようと、その3年後には白樺湖、蓼科周辺の別荘地探しに3回ほど1人で車中泊しながら出かけました。茅野駅から車で30分の所で300坪の土地が400万円と手頃な物件が見つかりました。妻に相談したところ「これから子供の成長にお金が必要なのにそんな別荘地を買う余裕がどこに有るの!」と猛反対され、断念しました。そこで月刊誌「Woody」とか「ウッディライフ」の読書で我慢しました。そして4年前の文化祭で面積6帖程度のドームハウスを、三ツ割材を骨組として製作しました。使用した材が細かい事もあって物置倉庫ぐらいにしか使えないだろうという建物になってしまい、現在はばらして古材として他使用となってしまいました。雑誌に紹介されている「ログビルディング・スクール」に参加したい時も有りましたが、それも費用の関係で実現できず現在に至っていましたところ、今回の「間伐材を使用したログテーブルの製作」テーマに私は心がとてもはずみました。もしかしてログテーブルを1人で製作できるかも知れないという期待感でした。しかし資料費が安いから5～6人で1つ製作するのではないかと思いつつ、7月26日午前7時30分に豊橋を出発して東京経由、越後湯沢駅を下車。そしてバスにてミナミスキー場前に到着しました。スキー場の有るところなら平地より涼しいだろうと思っていましたが、御存知のように猛暑で、避暑気分であけて来たつもりの考えが甘かったのです。開校式では会長の吉村都立葛西工業高校長が激励とねぎらいのお言葉を述べられました。続いて今回の研究協議会を開催するにあたって御尽力いただいた関東第一高等学校はじめ関係諸先生の紹介が有りました。そして香垂奈工房の栗田宏武氏の「ログハウスの現状」という講演を傾聴しました。その後山荘の空地にて講師の栗田氏がチェーンソーの種類・取扱い方を説明しました。そして栗田氏と関東第一高等学校の松本先生が模範演技をしました。やはりチェーンソーが稼動すると実に大きな音がしますので用意していただいたスポンジの耳栓をしました。第一線で活躍されているだけにチェーンソーの手さばきは堂に入っていました。又、関東第一高等学校ではログテーブル及びログハウスの製作を授業に取り入れているとの事で今回は生徒3人も私達の指導に参加していただきました。実際に取り組んで居られる松本先生はじめ諸先生及び生徒の情熱とパワーを初日に肌で感じました。同時に来年度から私も授業に取り入れてみようという意欲が湧いて来ました。さて、いよいよチェ

ソナーの起動という事ですが、実はチェーンソーたる道具を扱うのは初めての体験でしたので、心の不安と何かおそろしい凶器のようで自分ながらおどおどしているのを感じながらエンジンをかけました。そして手に取ってみると意外に軽く扱いやすいと思いました。長さ 50cm 位の間伐材にてチェーンソーで切断加工練習するわけですが、ただ真っすぐ切断するだけなら簡単ですが、斜めに切断しようとする抵抗を受けて思うようにはいきませんでした。ケガもなく無事に初日を終了しました。長旅と緊張感の疲れから熟睡することができました。2日目は関東第一高等学校で準備していただいたタイコ挽き間伐材を使っての製作です。水平器付のコンパス状のスクライパーは雑誌では知っていたのですが、実際にどうやって使うのかは知りませんでした。スクライパーの幅を 5cm にセットして直角に交又する下段の材の断面を上段の材に作図するわけですが、水平器の気泡が微妙に変化するのを持っていて手の動きが固くなって作図がうまくできませんでした。栗田氏に「柔らかに扱う事が大切」とアドバイスしていただきましたが何度も繰り返し作図しました。次に作図した線に沿って浅くノミで彫りました。そしていよいよチェーンソーで切り彫りました。まずは垂直に 5cm 深さまで数ヶ所切断し、カナヅチでたたき取ります。次に曲面状(凹状)に沿ってチェーンソーでアイドリングするわけですが、これがどうしてどうして難しいのです。部分だけに気を取られていると切断してはいけない所まで切断してしまったり、木の抵抗により思わぬ方向へチェーンソーが動いてしまうので、相当な緊張感で、余分な力が腕や肩に入っているのがよくわかりました。3日間でログテーブルを1人で製作する事はとても大変であることに気がつき、5~6人で共同製作が妥当であると思いつくと思いました。夢中で作業をしていたのか、耳栓を取り外したためか後日耳鳴りが1週間ほど続きました。4段積みぐらいで2日目は終了しました。夜は広場でバーベキューをして参加者の皆さんと懇親を深めました。せめて1年に1回ぐらいは他県の方々と懇親ができないだろうかと思いつくと思いました。いよいよ最終日です。ログテーブル完成を目指して頑張りました。前日の続きで2段積み上げ6段になりました。ドリルで垂直に穴をあけボルトを通しました。そして積み上げた材の両辺のカットで曲面線状にしました。次に天板ですが、板と板のスキ間をなくす為に板を並べて、板と板の接触線に沿ってチェーンソーで切断してそろえました。そしてサンドペーパーで表面を磨き完成です。出来上ってみるとかなりの大きさにびっくりしました。今回の「ログテーブルの製作」は本当にすばらしかったと思います。企画及び準備していただいた方々に深く感謝する次第です。本当に有り難うございました。……今回の参加で私も東日本建築教育研究会の手助けになる題材はないだろうかと思いつく事を考えてしまいました。もし日本の城の模型作りに興味がある方がいらっしゃれば手助けをしたいと思います。課題研究で城の模型を毎年造っています。特に地元の城を手がけています。

## 6. 製図分科会報告

東京工業大学附属工業高等学校 古賀 昌之

### 1. 分科会の動向

平成5年10月から平成6年9月までの1年間の製図分科会の活動状況について報告いたします。

平成5年10月5日（火）第3回製図分科会委員会（蔵前工高）

1. 平成6年度総会における各分科会の研究協議会の内容について
2. 平成6年度夏期研究協議会（製図分科会担当）について
3. 製図コンクールの審査日程について

平成5年11月12日（金） 第12回（平成5年度）製図コンクールの運営に協力

平成5年11月26日（金）                    〃    〃

平成5年11月27日（土）                   〃    〃

平成5年12月10日（金）                   〃    〃

平成6年1月10日（木） 第4回委員会（関東第一高）

1. 平成6年度山形大会製図分科会課題について（4分科会統一のテーマで、新教育課程における各教科の実施内容）
2. 製図コンクールの課題内容について

平成6年2月12日（土）13日（日） 第5回委員会・OB会（日工大東京工下田寮）

平成6年3月16日（水） 第6回委員会（蔵前工高）

1. 平成6年度山形大会統一テーマについて
2. 夏期研究協議会の内容について
3. 製図分科会の主査・委員・製図コンクール委員長について

平成6年4月26日（火） 平成6年度第1回委員会（蔵前工高）

1. 平成6年度山形大会における製図分科会議題について  
設計製図の指導に関するアンケート調査の内容の検討と作成
2. 総会での発表者、司会等の役割の決定

平成6年5月25日（火） 第2回委員会（蔵前工高）

1. 山形大会における分科会の協議用のアンケート調査の整理と検討
2. 配布資料の作成

平成6年6月16日（木） 第44回総会・研究協議会（山形大会）

〈製図分科会参加者63名〉

研究協議会においては、各分科会共通のテーマ「新教育課程における、各科目の指



導内容の検討」について協議を行った。

1. 司会進行（市川工高・菊池先生，高崎工高・金井先生），記録（関東第一高・塩沢先生）の紹介。主査の交代につき，土田前主査（蔵前工高）と古賀新主査（東工大附工高）の挨拶。

今回は会員各校にアンケート調査を行う予定であったが，「設計製図」の新単位数は決まっているものの，具体的な指導項目・内容は検討中の学校が多い状況なので，アンケートは製図分科会委員校を対象に実施し，調査結果をまとめたものを報告しそれをもとに協議を行うとの進行法の説明が主査からなされた。

協議に先立って，宇都宮工高で調査されたCAD教育の建築系をまとめた報告が，大森先生（宇都宮工高）より配布資料によってされた。

2. 東工大附工高・古賀委員より，アンケート調査の内容…①新旧教育課程の専門科の単位数と「製図」の単位数の比較 ②他の科目の中での振替え状況 ③新旧教育課程における実教の製図教科書の内容の指導の状況 ④CAD製図や模写以外の設計製図課題の試み等の項目の調査結果を配布資料によって概要説明。

- 全体の単位数減に伴い製図の単位数も減少
- 従来の製図の指導内容を他の科目で，時間を振替えたり，内容を分担指導したり，学校によって種々の工夫をしているが，他の科目も単位数減しているため，困難さが目立つ。
- 模写以外にも生徒の創造性の喚起や興味付けとして，各種の設計やデザインコンクールへの参加なども試みられている。また，設計を課題研究の中で取組ませている事例も報告されている。

3. 質疑応答・情報交換の中では次のような意見が出された。

卒業設計の実施について

菊池先生（市川工高）：3年では前半コピー製図，後半卒業設計を行っている。実習の中で選択させCAD製図もやらせている。

金井先生（高崎工高）：前任高では，3学期実習の中で選択という形で，7～8週で卒業設計をやっている。

群馬県の6校展は昨年で30回になるが，初期のころは良い作品を持ち寄っていたが最近では競技会的になって，図面をきれいにかくことに力点がおかれ問題になってきている。

CAD製図について

大森先生（宇都宮工）：評価方法が難しい。時代の要請に対応しているが，40人一斉の指導体制で操作を教えて図面を仕上げ，オペレーターで終わっている面もある。

森田先生（富山工）：2年の実習で操作法を終え，平成4年度より3年生は2学期C

A Dで設計をやらせ発表させている。いかに自分で考えたか創造性を評価している。

他にもいろいろな意見が出されたが、それらの意見を整理集約し、指導内容・方法を引き続き分科会で研究していくことで終了した。

平成6年7月26日（火）～28日（木） 平成6年度夏期研究協議会（役員含め総勢60名）

私立関東第一高等学校の絶大なご支援を得て、新潟県六日町の当校寮「白銀山荘」にて開催。好天に恵まれチェーンソーのごう音を轟かせて製作実習に励み無事終了。

以下日程の概要を報告いたします。

#### 日程概要

- 第1日 7月26日（火） 受付 12：30～13：00
- 1) 開会
    - ① 開会の辞 事務局
    - ② 会長挨拶 東日本建築教育研究会長
    - ③ 主査挨拶 講師・指導員紹介 製図分科会主査
    - ④ 日程 概要説明・諸連絡 運営委員
  - 2) 製作準備 13：20～14：20
    - ログハウス講義 講師・栗田宏武
    - 配布資料・実習内容説明 関東第一高・松本雅晴
  - 3) 記念撮影
  - 4) 実習・製作 14：30～17：00
    - 班別にログテーブル作製作業
- 第2日 7月27日（水）
- 1) 実習・製作 8：00～17：00
    - 班別にログテーブル作製作業
  - 2) 教育懇談会 18：00～20：00
- 第3日 7月28日（木）
- 1) 実習・製作 8：00～9：30
  - 2) 閉会 9：45～10：30
    - ① 閉会の挨拶 東日本建築教育研究会副会長
    - ② 講評 講師
    - ③ 参加者謝辞
    - ④ 閉会の辞
    - ⑤ 連絡事務 運営委員
  - 3) 昼食・解散 11：30～12：30

## 7. 構造分科会報告

東京都立田無工業高等学校 本間 正明

平成5年9月より、平成6年8月までの1年間の構造分科会活動状況の概略を報告します。

### 平成5年9月24日（金） 第7回委員会（都立葛西工高）

1. 夏期研究協議会総括  
会計報告及び諸記録（文書，写真，VTR）の確認
2. 平成6年度総会に向けて：研究協議テーマの検討  
生徒減への対応，課題研究についての情報交換，情報技術基礎の指導内容及び指導方法，新教育課程に伴う教科内容の精選及び視聴覚を活用した教材研究等々について検討。
3. 「新版，建築の基礎問題」改訂について  
SI単位導入に伴い，構造設計における単位の改正及び各項目内容について検討
4. 平成5年度見学会について  
鋼材倶楽部後援で毎年1回行なっている見学会について，候補場所について情報交換

### 平成5年11月12日（金） 第8回委員会（都立葛西工高）

1. 平成6年度総会に向けて：研究協議テーマの検討（継続）  
理事会決定により，各分科会共通テーマとして「新教育課程における，各科の指導内容の検討」を受け，「建築構造」及び「建築構造設計」について，各委員校にて設定している新教育課程単位数及び現行年間指導上の各項目別指導ウェイトの調査を行う。
2. 「新版 建築の基礎問題」改訂原稿の検討  
改訂部分についての問題点を各委員より提案し，検討。改訂原稿完了。
3. 平成5年度見学会の企画  
見学場所として，江東区江東公会堂改築工事現場を第1候補と選出。実施日について検討し，2月上旬にて現場との折衝を行うこと。各校案内状の内容等について協議。

### 平成5年12月16日（木） 第9回委員会（都立葛西工高）

1. 平成6年度総会に向けて  
「平成6年度生についての教育課程及び年間計画に関するアンケート」の検討  
平成6年度生について，委員各校における「建築構造」及び「建築構造設計」の指導，学年・指導単位数の調査を行った。これによると各校における特色，生徒の実態も含め，それぞれ限られた単位数の枠の中での配慮が見られた。  
しかし，構造分科会として，平成6年度生に対する年間指導計画を検討するうえでアンケートを基に「建築構造」及び「建築構造設計」の単位数を共に4単位と設定。

以後、各委員校の実態に合せ、各4単位での年間指導計画案の作成に着手。

## 2. 「建築構造設計」にパソコンを活用することについての検討

近年における生徒の計算力低下の実態と、限られた単位数の枠の中では、各種構造物の「構造計算」にまで到達することが困難となっている。そこでパソコンを活用することによって①構造設計の目的とする内容を明示し、それに要する基礎学習についての学習意欲を高める。②課題研究にて構造計算まで到達する生徒を育てる等の可能性について検討。

しかし、現在市販されている「構造計算ソフト」は実務的であり、それを使いこなす以前に、基本的入力ミス、出力ミス等が判断できる能力たる基礎学習の指導に重点を置くべきとの意見が強く、別途、教育現場で利用できるソフトの検討を待つこととした。

## 3. 見学会の企画確認

見学会日時を平成6年2月4日(金)午後2時～4時に決定。案内・申込書の作製。関東近県へ郵送。また、鋼材クラブにも連絡し、クラブ作製の教材ビデオテープの寄贈を依頼。

### 平成6年1月31日(月) 第10回委員会(東工大附属工高)

#### 1. 平成6年度総会へ向けて

前回の「年間指導計画案」についての検討に加えて、次の各項に関する指導案を作成する方向で検討。①省略部分を含む「章」または「項」についての指導案 ②指導しにくい部分についての指導案 ③難しい(理解しにくい)部分についての指導案等。

#### 2. 工業高校の将来展望についての意見交換

建築科としての指導内容のレベルをどこに置くか、それに併せた将来展望について、総合学科、専攻科の設置等についての意見交換を行った。

### 平成6年2月4日(金) 見学会

一昨日の雨と打って変わり、柔らかな日差しに包まれ、参加校19校、会長も含め33名の参加をもって盛大に行うことができました。

見学会は、江東区役所営繕課青木一己主事より今回の工事を企画進行する上での諸問題点を含む概要について説明があり、次いで(株)久米建築事務所都世子一成工事監理室理事より先の諸問題への対応策について具体的な説明を受けた。その要点としては、埋立地である軟弱地盤への対応として、①RC連続壁・ソイル柱列による山留及び地盤改良工法 ②逆打工法による躯体施工 ③地下鉄からの振動防止に対し、本躯体では防振ゴム・発泡ポリエチレンの使用、小ホール等では浮床工法 ④浮力に対し、カウンターウェイト(浮力に対する重量として基礎部分に増しコン)や透水管の設置 ⑤メタンガス対策等について説明がなされた。その後、現場見学、質疑応答がなされ、有意義な見学会となった。終了後、鋼材クラブの援助により、クラブで作製した鉄骨建築ビデオ教材シリーズ「鋼材の材料試験編」「接合編」「座屈編」の3巻を参加各校に配布させていただいた。

## 平成6年4月23日（土） 第1回委員会（都立葛西工高）

### 1. 平成6年度総会に向けて

- ① 年間指導計画案のまとめ：各委員にて作成の年間指導計画案を集計。省略または、補充を要する章・項についてのコメントを整理し検討を行った。

当初、構造分科会として「建築構造」及び「建築構造設計」について、それぞれ4単位で指導する年間指導計画案を提示する予定であった。しかし、各委員の持ち寄った案について検討した結果、各校の生徒の理解力の差が大きく、ことに「建築構造設計」において著しく異なるため、1案としてまとめることが困難であることから、それらを参考案として表示することとした。

- ② 学習指導案例についての検討：総会・分科会資料に添付する学習指導案をまとめかつ、当日代表説明を行う指導案の内容の検討及び分担を決定。

## 平成6年5月28日（土） 第2回委員会（都立葛西工高）

### 1. 平成6年度総会に向けて

- ① 総会・分科会資料：コメント検討及び最終チェックを行い、印刷・製本
- ② 分科会進行企画及び役割分担

## 平成6年度第44回山形大会・研究協議会〈構造分科会〉：参加者35名

平成6年度第44回山形大会・研究協議会においては、共通テーマである「新教育課程における、各科目の指導内容の検討」について協議を行った。以下当日の概要について掲載します。

### 1. 主査挨拶

本間主査挨拶。司会進行（葛西工高・松井先生）、記録（川越工高・西村先生）を紹介。今回の協議テーマ「新教育課程における、各科目の指導内容の検討」に添って、「建築構造」「建築構造設計」についての新教育課程における提案及び問題点の提起を行い、次いで、出席者の自己紹介（校名・氏名）、討議資料説明、指導案説明、質疑応答（明校の実態を踏まえた新教育課程における問題点）、まとめの順で行うとの進行主旨説明がなされた。

### 2. 出席者自己紹介、34校、35名出席

### 3. 討議資料説明1：新教育課程における年間指導計画案について

田無工高・本間委員より、委員各校における新教育課程での「建築構造」及び「建築構造設計」に組み込まれた単位数を提示。各校において不足単位数分をどのように解消しているか①内容の精選、②到達目標の変更、工③業数理の一部で補充、④課題研究または選択制により到達不足分を補う等の実態を説明。

次いで、新教育課程における必要単位の検討を行う上で調査した現行の年間指導計画の中での各項目別指導ウェイトのまとめを発表。この中で、削除または一部削除した部分、必要に応じ補充説明を行っている部分等についてのコメントや指導上での問題点、生徒の理解を深めるうえでの工夫についてのコメントを説明。

以上の経緯を踏まえたうえ、各科目共4単位とした場合の委員各校の実態に合わせた年間指導案を提示し、その特徴について言及。

#### 4. 討議資料説明2：学習指導案例の発表（3題）

##### ① 川越工高・西村委員：静定ラーメンの応力

門形ラーメンの曲げモーメントはどのようになるか、厚さ1ミリのミュージズボードで門形ラーメンを作製し、荷重状態による変形を確かめさせながら計算結果との確認をさせる指導案を発表。

##### ② 田無工高・本間委員：構造設計に用いる単位〈S I 単位〉

国際化に伴いS I 単位移行への必要性。質量と重量との違いについて、無重力域、月面上、地球上で、同一物体の質量と重量との比較の上から考えさせる。

その他のS I 単位（基本単位・補助単位・組立単位等）と今後の移行情報について。

##### ③ 市川工高・佐藤委員：コンクリートの中性化現象と品質

おもに酸性雨によるコンクリートの劣化現象を通して、品質を確保するための技術的な項目に対して関心を高める。コンクリートの「つらら」現象の新聞記事から発問を起し、中性化進行の理論とチェック、中性化対策の検討について諸事項について考え、計画調合の必要性、かぶり厚さについての確認等に及ぶ指導案。

#### 5. 質疑応答：新教育課程における問題

筒井先生（鶴見工高）：2学年からの設計では、標準テスト出題範囲であるラーメンの応力まで進めることは不可能であり、2年生実施は無理。…委員にて検討要。

市毛先生（昭和第一高）：理解困難である現状に加え、S I 単位の導入はさらに困惑を招く。教師自身が換算しながらでなく、抵抗なく消化した上での指導が必要か。

中野先生（鶴岡工高）：建築士等の試験で、S I 単位の切り替えはいつからか。

……建築基準法等の法改正が整った時点と思われる。教科書は平成7年度版から。

佐藤先生（市川工高）：生徒の学力が年々変化している。その年、その時に生徒の実力に合わせて工夫している。

鈴木先生（甲府工高）：一般構造を1年生に組み込まず、工業基礎の中で補充している。設計は図式解法の理解も不満足であり、設計を教える必要性に疑問あり。専攻科における習熟度別学習の中で補充している。

以上の他にも、教科書の内容についての問題、生徒能力に合わせた補足等多数提言ありました。各校とも生徒の能力と科目における到達目標との検討を新教育課程の中でよぎなくされており、苦慮されている実態が浮き彫りとなった。

## 8. 計画分科会報告

県立小田原城北工業高等学校 大庭 孝雄

本年度総会・研究協議会における計画分科会の協議内容のあらましと、最近の分科会活動状況につきましてご報告申し上げます。

### 〔1〕平成6年度・第44回総会・研究協議会（山形大会）の報告

平成6年6月16日（木）～17日（金）「滝の湯ホテル」

#### ＜議題＞「新教育課程における建築計画の指導内容の検討」

新教育課程における「建築計画」と「建築法規」の単位数は、計画2単位、法規2単位が主流をなしていることを踏まえ、実時数60時間を想定した場合の指導内容について、新教科書・建築計画の目次に基づいて協議、検討する。

#### ＜協議の内容＞

計画分科会委員の私案「建築計画の指導内容と時間配分」（下表）を提示して、分科会参加各校における建築計画の実施単位数および指導内容などについての情報交換並びに意見交換等研究協議を進めた。

—建築計画の指導内容と時間配分— （計画分科会委員の私案）

	私案(1)	私案(2)	私案(3)	私案(4)
新教科書目次案	時数配分	時数配分	時数配分	時数配分
第1章 建築計画の概要	3	4	9	10
第2章 建築の移り変わり	8	10	17	20
第3章 建築物の内外の環境	10	8	21	30
第4章 住宅の計画	19	17	9	—
第5章 集合住宅の計画	6	8	—	—
第6章 事務所の計画	5	8	—	—
第7章 都市の地域の計画	4	5	4	—
第8章 建築設備の計画	5	—	—	—
時数合計	60	60	60	60

〔表中 一印は、①実習や法規などの関連教科や②選択科目などで扱う。〕

分科会に参加されました先生方から各校の取り組み状況の報告、さらには意見交換が活発になされましたが、一つの方向性に意見集約するまでには至りませんでした。

時間の制約から情報交換に終始した感がありますが、主だった意見を集約しますと以下ようになります。

○「単位数」について

新教育課程における「建築計画」の履習単位を2単位、「建築法規」を2単位として想定し、各校における取り組み状況について情報交換をいたしました。

とりわけ「建築計画」の2単位については、カリキュラム編成上からやむをえない状況にあります。その内容から3単位～4単位以上は必要であるとの意見が大勢を占めました。

また、比較的履習単位の少ない学校では、他の関連教科、実習や製図などで不足する単位数を補っているとの報告も多くありました。

○「建築計画の指導内容と時間配分」について

別表の計画分科会委員私案「建築計画の指導内容と時間配分」を提示して、各校の実状についての情報交換や意見交換をいたしました。

各校における指導内容につきましては、私案(1)から私案(4)のいずれの提示案にも該当校があり、実に多岐にわたっていることがわかりました。さらに、私案(2)～(4)における教科書目次案に掲げる項目の内、取り扱わない内容については、いずれの学校においても選択科目の設定や実習、製図といった関連科目で取扱っており、その殆んどの内容が、何んらかのかたちで取り込まれていることがわかりました。

## 〔2〕分科会活動報告

計画分科会では、昭和63年4月の教材委員会に仮称「建築法規の手引書」の執筆計画案を提示、了承を得た。

その後、「見本原稿」を作成、教材委員会に提示、平成4年7月には最終原稿の提出の運びとなっていた矢先、平成5年に建築法規の大改正、さらには、平成8年度には教科書の刊行が予定されるなどの諸般の事情によって、刊行計画の見直し、執筆作業の中断を余儀なくされ今日に到りました。

本年度、新計画分科会委員によって、新たに刊行計画を立案、教科書の発刊に先駆け、平成7年度刊行を目指し、執筆作業に着手することになりました。

以下に、刊行計画の概要を掲載いたしまして、分科会活動報告とさせていただきます。

### 一刊行計画一

名 称 仮称 「建築法規の入門書」

判型・頁数 B5判 120～150頁程度

発刊予定 平成7年度

### 一編集の基本方針一



- 建築法規の教科書の副教材として活用できる内容とする。
- 一般書として、2級建築士の試験対策本としても活用できる内容とする。
- 法規の演習を主体とするが、教科書や法令集の解説となりうる解説文を組み込む。
- 巻末に「演習問題」25問を設ける。内容は2級建築士受験対策問題とし、解答には解説文を組み込む。

—目次案—

- 第1章 建築法規の概要
  - 1・1 建築法規のあらまし
  - 1・2 建築基準法の構成
- 第2章 建築基準法の用語と面積算定
  - 2・1 建築基準法の用語
  - 2・2 面積と高さの算定
- 第3章 単体規定
  - 3・1 一般構造
  - 3・2 構造強度
  - 3・3 防火規定
  - 3・4 避難規定
  - 3・5 建築設備
- 第4章 集団規定
  - 4・1 集団規定の概要
  - 4・2 道路と敷地
  - 4・3 建ぺい率と容積率
  - 4・4 高さ制限
  - 4・5 地区計画・その他
- 第5章 制度規定
  - 5・1 制度規定のあらまし
  - 5・2 建築確認
  - 5・3 工事にかかわる手続き
  - 5・4 その他
- 第6章 その他の関連法規
  - 6・1 関係法規の種類
  - 6・2 建築士法
  - 6・3 建設業法
  - 6・4 その他

## 9. 施工分科会報告

神奈川県立神奈川工業高等学校 山崎 敏弘

施工分科会は、年5回程度の委員会を各委員の学校を会場とし交流を計りながら開催しています。今回は、平成5年9月から平成6年8月まで、1年間の活動状況と山形県総会・研究協議会の内容を報告します。

平成5年10月21日（金） 平成5年度第3回委員会（東京都立葛西工業高校）

1. 平成5年度の研究課題について検討。  
今年度は、各分科会の共通課題として、「新教育課程に対応した指導法」の研究をすることになっており、当分科会は、「建築施工の単位減における指導法」を課題として研究している。
2. 建築基準法、JIS、JASS等の改訂のため、新版「建築の基礎問題」の検討をした。
3. 主査会、理事会（平成5年10月5日 於都立葛西工高）の報告。

平成5年12月13日（月） 第4回委員会（神奈川県立神奈川工業高校）

1. 「建築施工の単位減における指導法」について検討した。
2. 県立神奈川工業高校改築現場を見学した。  
（神奈川工業高校改築工事 地上10階 延床面積26,719m<sup>2</sup> 鉄骨構造  
新構想高校新築工事 地上10階 延床面積23,961m<sup>2</sup> 鉄骨構造）

平成6年3月4日（金） 第5回委員会（日本工業大学付属東京工業高校）

1. 「建築施工の単位減における指導法」について検討した。  
教科書にない箇所を補足すべき大切な内容を参考資料として添付することになる。
2. 主査会（平成6年1月28日）の報告。
  - ① 平成6年度製図コンクール委員として、小池、丸山委員を選出した。
  - ② 建築施工管理技術者の資格試験について、経過報告をすると同時に、各委員の学校の協力をお願いする。

平成6年4月27日（水） 平成6年度第1回委員会（神奈川県立神奈川工業高校）

1. 平成5年度の研究課題、「建築施工の単位減における指導法」について検討しまとめた。
2. 総会のための資料印刷・製本、当日の研究協議会進行について検討。
3. 当分科会の平成5年度会計決算報告をする。平成6年度委員を確認。
4. 理事会の報告（平成6年4月22日、於都立葛西工高）。

平成6年6月16日（木） 山形大会・施工分科会研究協議会の報告 出席者27名

研究協議会は、多数の先生方に出席していただき、約1時30分熱心に討議・意見交換

をすることができました。ここに内容の一部を記載いたします。研究課題の詳細は、資料 No.29 を参照して下さい。

※ 司会……田島 昇委員（大宮工高）

施工分科会の活動報告・研究課題の説明……主査

1. 研究課題 建築施工の学習指導について

「新教育課程における、建築施工の指導法」について

○研究課題の考え方と内容について

平成6年度から新教育課程が実施されるため、工業の専門科目の単位が減少になる。

「建築施工」の科目は、アンケートによると、現在3学年で3単位で履修されているが、1単位減の2単位になる学校が多い。そこで、単位減に対応して、能率的で工夫された学習指導法について、次のような条件のもと検討した。

- ① 履修学年 3年，2単位，25週，合計50時間とする。
- ② 現在使用の「建築施工・改訂版」の教科書を検討する。
- ③ 指導内容として、重点項目の指摘とその指導法・履習時間・建築実習・建築構造など関係科目で代替える項目などをまとめる。
- ④ 教科書に記載ない箇所で補足すべき大切な内容の一部を参考資料として添付する。

2. 研究協議会では、各学校の指導法を拝聴しました。その一部を記載します。

- 就職試験期日の関係で、第5章の主体工事から授業を進めている。
- 3単位でも少ないため、第6章の仕上工事は省き、積算は大切なので演習ノートで実施している。
- 安全管理、積算を参考資料をつくり学習させている。
- 絵や図、表、マンガなどで、理解しやすい教材があるとよいが。
- 3単位でも、第1章から始めると第5章主体工事までがやっとである。
- 今の教科書は理解しにくい、やさしく、具体的なものにならないか。
- 授業に役立つようなビデオがないものか。
- 単位減になると、就職試験や来年度から実施予定の建築施工技術者資格試験の指導対策に苦慮する。
- まとめ 各学校の先生方とも「建築施工」は現在の3単位履習でも少なく指導法を工夫し、自主教材を利用している。卒業生の進路としては建設業関係企業に就職する率が高く、また「建築施工管理技術者」の資格試験が在学中に受験可能になることを考えると、さらに学習することが必要であり、指導法の工夫と同時に「課題研究」や「選択」で補うことが望まれる。

3. 施工分科会 山形大会 資料 No.29 より 第5章主体工事について掲載します。

履修内容と程度		指導内容				
※ ○：普通，△：要点のみ，×：不行	※	関連科目	主眼点：学習方法	時間		
<b>第5章 主体工事</b>						
1. 木 工 事..... 102	○	実習などの授業で現場見学を実施し理解させる	○JASより木材の種類・建方の施工法を理解させる。	12		
1. 材料と工具・機械..... 102						
2. 下ごしらえ..... 102						
3. 建 方..... 105						
4. 下地木工事..... 107						
5. わく組壁工法..... 108						
問 題..... 110						
2. 鉄骨工事..... 111	○				実習などの授業で現場見学を実施し理解させる 実習2，鉄骨現寸実習	○鉄骨造の建方と接合方法について理解させる。 ○JASSを引用して理解させる。
1. 材 料..... 111						
2. 工事計画..... 112						
3. 鉄骨工場作業..... 114						
4. 鉄骨現場作業..... 120						
5. 軽量形鋼構造工事..... 124						
6. 鋼管構造工事..... 124						
7. 耐火被覆工事..... 125						
問 題..... 126						
3. 鉄筋コンクリート工事..... 126	○	実習などの授業で現場見学を実施し理解させる 実習2，鉄筋の加工・組立	○型わく工事の材料・支保工について理解させる。 ○型わく加工・組立，鉄筋加工・組立，コンクリートの打込について施工法を理解させる。 ○ビデオで理解させる。 ○JASSを引用して理解させる。			
1. 型わくの設計..... 126						
2. 型わくの工事..... 134						
3. 鉄筋工事の要領と材料..... 139						
4. 鉄筋の加工と組立..... 141						
5. コンクリート工事の計画... 147						
と管理						
6. コンクリートの生産と運... 148						
搬						
7. コンクリートの打設..... 153						
8. 軽量コンクリート工事と... 158						
その他の特殊コンクリート工事						
問 題..... 162						
4. コンクリートブロック工事と... 163	△	実習1，コンクリートの調査設計で理解させる	○ALC版，PC版の施工法について理解させる。			
組立式鉄筋コンクリート工事						
1. 補強コンクリートブロッ... 163						
ク工事						
2. コンクリートブロック帳... 166						
壁構造						
3. 組立式鉄筋コンクリート... 167						
工事						
問 題..... 169						
5. 防水工事..... 169	○		○各種防水工法，下地について理解させる。			
1. アスファルト防水..... 169						
2. シート防水..... 173						
3. モルタル防水..... 174						
4. ステンレスシート防水..... 174						
5. シーリング工事その他..... 175						
問 題..... 176						

# 10. 製図コンクール運営委員会

## (第12回 審査結果報告)

東京都立蔵前工業高等学校 土田 裕康

第12回（平成5年度）製図コンクールには、会員校および、会員以外の諸先生方のご協力を得て、優秀な作品を多数応募いただき、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。尚、本運営委員会の委員長を永らく勤められました赤地龍馬先生が、本年3月で退職されましたので、私が変わりに勤めさせていただくこととなりました。赤地先生には長い間本当にご苦労様でした。今後とも、諸先生方の絶大なるご協力、ご支援をお願い申し上げます。

なお、第12回の審査結果につきましては、入賞者一覧表および課題3の金賞図面を住宅建築の専門月間誌である「住宅建築」（建築資料研究社刊）の平成6年2月号に掲載しました。

### 1. 応募校数

86校（全日制 82校、定時制 4校）

東（会員校） 全日制 69校 定時制 4校

西（会員校外） 全日制 13校 定時制 0校

### 2. 応募作品数

	学校数・作品数			全日制・定時制の別			
		学校数	作品数	全	全日制	定	定時制
課題 1	東	58校	109点	全 55校	104点	定 3校	5点
	西	10校	17点	全 10校	17点	定 0校	0点
課題 2	東	57校	108点	全 56校	106点	定 1校	2点
	西	9校	15点	全 9校	15点	定 0校	0点
課題 3	東	44校	84点	全 42校	81点	定 2校	3点
	西	8校	12点	全 8校	12点	定 0校	0点
計	347点（東 303点・西 44点）						

### 3. 各課題応募作品数・学校数

	1点	2点
課題 1	8校	60校
課題 2	9校	57校
課題 3	8校	44校

4. 都道府県別応募数・学校数 平成5年（第12回）

都道府県	会員 校数	課 題 1		課 題 2		課 題 3	
		学校数	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数
1 北海道	17(5)	1	1	1	2	0	0
2 青 森	6	0	0	0	0	1	2
3 岩 手	4	3	6	3	6	2	4
4 宮 城	4(1)	1	2	1	2	0	0
5 秋 田	5	2	4	1	2	1	1
6 山 形	5(1)	1	2	2	4	0	0
7 福 島	7(1)	3	6	1	2	1	2
8 栃 木	6(1)	2	4	2	4	1	2
9 群 馬	8(2)	5(2)	9(4)	3(1)	6(2)	3(1)	6(2)
10 埼 玉	6(1)	4	8	4	8	2	4
11 茨 城	4	1	2	1	2	0	0
12 千 葉	5(1)	2	4	2	4	3	6
13 東 京	13(3)	8	15	9	16	6	12
14 神奈川	11(4)	3	6	3	5	5(1)	8(1)
15 山 梨	4(1)	3	6	3	6	3	6
16 新 潟	3	1	2	1	2	1	2
17 長 野	5(1)	2	3	3	4	1	2
18 富 山	2	0	0	0	0	0	0
19 石 川	5(1)	1	2	1	1	0	0
20 福 井	2	0	0	0	0	0	0
21 静 岡	8(2)	1	2	1	2	0	0
22 愛 知	9(1)	8(1)	15(1)	8	16	8	16
23 岐 阜	8(1)	6	12	7	14	6	11
計	147	58	111	57	108	44	84
定時制 (27)		(3)	(5)	(1)	(2)	(2)	(3)
24 西日本	110	10	17	9	15	8	12
三重・大阪・兵庫・広島・徳島・愛媛							
合 計		68(3)	128(5)	66(1)	123(2)	52(2)	96(3)

( ) 内の数字は定時制

## 5. 入賞者一覧表

課題 賞	課 題 1	課 題 2	課 題 3
金賞	市立・広島工業高等学校 木原 雄吾	盛岡工業高等学校 橋本由紀雄	龍野実業高等学校 西山 英毅
銀賞	可見工業高等学校 深浦 愛 前橋工業高等学校 富澤喜久夫 甲府工業高等学校 福井 万里	高山工業高等学校 藤掛 徳春 北富士工業高等学校 滝口 伸一 豊橋工業高等学校 尾崎 喜洋	神奈川工業高等学校 熱田 紀子 峡南高等学校 宮川 誠 飯田長姫高等学校 増田 寛明
銅賞	前橋工業高等学校 齊藤 由美 鶴見工業高等学校 清水 正直 勿来工業高等学校 坂本美智子 三原工業高等学校 宅野 伸 今宮工業高等学校 芦田 武志 可見工業高等学校 丹羽 友美 安田学園高等学校 三田 康宏 埼玉・大宮工業高等学校 猪瀬 恵美	会津工業高等学校 佐藤 輝信 飯田長姫高等学校 仲井 広美 神奈川工業高等学校 竹屋真由美 岐南工業高等学校 神山 大 白石工業高等学校 福地 達也 神奈川工業高等学校 和田 大介 県立・広島工業高等学校 二反田一子 日本工業大学付属東京工業 高等学校 武田 竜太 高山工業高等学校 清水 康雄	豊橋工業高等学校 山本 哲司 田無工業高等学校 窪田 寛和 市川工業高等学校 近藤 智也 甲府工業高等学校 杉田祐美子 甲府工業高等学校 加島 健次 鶴見工業高等学校 山本 広 豊橋工業高等学校 伊奈 義展 日本工業大学付属東京工業 高等学校 鈴木 淳一
奨励賞	米沢工業高等学校 小原 友裕 高崎工業高等学校 定時制 深町 克彦	谷田部高等学校 滝本百合子 前橋工業高等学校 定時制 蛭川 佳美	神奈川工業高等学校 定時制 荒金 鉄雄 由利工業高等学校 神坂 正人

## 6. 審査講評

審査は課題ごとにチェックポイントを定め、減点方式により複写図の表題欄をカットして、厳正かつ公平に実施しました。

課題1は、参考図を製図の基本（線の太さの区別・文字の大きさなど）に従って、忠実に模写するものであり、ワープロによる文字や型板による数字を複写した作品があり入賞作品から除外しました。

課題2は、参考図を模写する部分（平面・立面図）と、設計要素と表現力を必要とする部分（配置図・断面図）の内容であり、断面図の表示内容と造園計画（表現力）が、入賞のポイントになりました。

課題3は、設計製図であり、配置・平面・意匠・構造計画および、製図力・表現力など、トータルなもので審査され、入賞作品は平面・立面・構造計画がすぐれており、図面表現が良いものが優先されました。

各課題ごとの詳細な講評は、別紙の通りです。入賞作品のなかにも減点方式であるため、多少の記入もれや未熟なミスのあるものもあります。

したがって、金賞・銀賞作品といえども、未熟なミスがあり甲乙つけがたい作品であるため、未熟なミスの最も少ない作品が上位になりました。今後とも生徒への適切など指導をお願い申し上げます。

## 7. 第12回（平成5年度）審査委員

赤地 龍馬（田無工）	古賀 昌之（東工大附工）
大間 俊彦（関東第一高）	酒井 健一（向の岡工）
小沢 宏（墨田工）	塩沢 泰（関東第一高）
金井 孝雄（前橋工）	千葉 一雄（小石川工）
菊地 貞介（市川工）	土田 裕康（蔵前工高）
小池 逸郎（北富士工）	角田 勝男（神奈川工）
	福島 勝（日工大付東京工）
	西村 文雄（川越工）
	福住 英毅（神奈川工）
	松本 重昭（大宮工）
	村川 孝三（日工大付東京工）



# 11. 資格取得検討委員会報告

栃木県立宇都宮工業高等学校 岡田 義治

## I. 資格取得検討委員会の当面の活動

資格取得検討委員会を設置した目的と同委員会の検討事項については「建築ニュース」(1993. 11)に報告した。その検討事項の中には、すぐに取り組まなければならないものも多いが、当委員会では現在下記の二つのテーマ(課題)に絞って活動している。

1. 二級建築施工管理技術検定試験につながる「建築施工技術者資格(仮称)」の新設と、その試験を在学中に受験できるような環境の整備。
2. 「建築施工技術者資格」の新設と同試験の実施を関係機関に要望するための全国組織「全国高等学校建築教育連絡協議会」の設立。

(この課題については、東日本建築教育研究会事務局と西日本工高建築連盟との連携のもとに推進されている。)

## II. 活動の経過と現状

1. 「建築施工技術者資格(仮称)」の新設と試験の実施に関して

### (1) 経過

#### ア. 建設省での確認

土木系の学科で平成年に実施された「土木施工技術者」資格の例では、在学中に学科試験(土木工学等と法規の二科目)を受験し、合格者は土木施工技術者の資格を取得し、3年間の実務を経て2級土木施工管理技術検定試験を受験する際に、すでに合格している二科目の試験が免除となるしくみになっている。

施工管理技術検定の種別「土木」と「建築」では試験の実施機関(建築は「(財)建設業振興基金」)が異なるため見通しは必ずしも明確ではないが、いずれにしても在学中に受験できる「施工技術者」試験の合格科目が2級施工管理技術検定試験で免除されるようにするには、「建設省の告示」が必要になる。

こうした土木の例に倣った資格の新設と試験の実施、さらに2級施工管理技術検定へつなげる資格とすることが可能かどうかについて建設省の説明を聞いた。

#### ■ 2月22日(火) : 「建設省建設経済局建設業課」

全国建設業協会の永田建築部長のご案内で吉村会長、松井事務局長、岡田資格取得検討委員長が建設省へ伺い、建設経済局建設業課の大田課長補佐より説明を受けた。内容は全国の建築系学科の先生方がこの資格と試験の実施に理解と熱意を傾け、試験の実施を引き受ける機関があれば実現の見通しはある、というものである。

■ 9月9日（金）

全工協の小川先生、吉村会長、松井事務局長が建設省へ伺い、全工協を通して上申する資格試験に関する文書（要望書）についてのご指導を頂いた。

イ.（財）建設業振興基金との話合い

■ 2月22日（火）「財団法人 建設業振興基金試験研修本部」

建設省の説明を受けた後、2級建築施工管理技術検定試験の実施機関である建設業振興基金を訪問し、試験実施の見通し等について伺った。

内容は建設省と同様に、全国の建築系学科の先生方がこの資格と試験の実施に理解と熱意を持ち、試験の実施にあたっては会場の確保や試験の監督等に協力を惜しまないこと、そして建設省が土木と同様の告示を出し、継続して受験生（数）が確保されることが試験実施の前提となる、というものであった。

■ 6月7日（火）「社団法人 全国建設業協会」

建設業振興基金から示された前提事項（Ⅱ・1・(1)・イ・2月22日）の一つである「この資格と試験に対する全国の建築系学科の教員の意識」について、アンケート等でその意欲が確認できたため、建設業振興基金（今村氏）に報告し、吉村会長、松井事務局長、岡田委員長から重ねて試験の実施を要望した。全工協からは小川幸男先生が同席され、全国建設業協会の永田部長からも模擬テストの実施等についてのご助言を頂いた。

■ 8月18日（木）「財団法人 建設業振興基金試験研修本部」

松井事務局長と岡田委員長が建設業振興基金を訪問し、国本、今村、森谷の三氏から模擬試験の実施計画についてのご指導を頂いた。

さらに本試験実施についてお伺いしたが、正式な要望書が提出されてから改めて検討するとしながらも、具体的な検討を行った結果、いくつかの問題点が残っていることも示唆された。

ウ. 全国工業高等学校長協会よりの指導

建設省、建設業振興基金等との話合いから西日本工高建築連盟との協議、要望書の内容、全国組織の会則・細則、模擬試験の実施計画等々について、節目に適切なご指導と助言を頂いている。

エ.（社）全国建設業協会の指導

建設省や建設業振興基金とのコンタクトをはじめ、要望書の提出や模擬試験の計画等について、懇切な指導を頂いている。

オ. 東日本建築教育研究会の活動

a. 会議・文書の発送等

- ・ 2月22日：建設省、建設業振興基金より資格の新設、試験の実施について説明

を受ける。

- ・ 3月19日：資格検討委員会（経過報告，アンケート原案検討，今後の日程等）
  - ・ 3月31日：西日本工高建築連盟との協議（第1回・経過報告，アンケート原案検討，今後の日程等）
  - ・ 4月15日付で東日本建築教育研究会々長から各建築系学科設置校々長宛に文書を発送「事務局」
  - ・ 4月22日：資格取得検討委員会（経過報告，アンケート用紙の発送について，今後の日程等）
  - ・ 4月末日～5月初旬：「建築施工技術者試験」（仮称）に関するアンケート調査票を発送（272校宛）
  - ・ 5月18日：「建築施工技術者試験」（仮称）に関するアンケート調査票を回収締切（5月31日までに212通を回収／回収率78%）
  - ・ 5月18日～20日：アンケート集計・中間まとめ
  - ・ 5月21日：西日本工高建築連盟総会（経過報告，アンケート集計結果の中間報告，施工技術者試験への理解と全国組織の必要性について）
  - ・ 6月7日：全工協・全国建設業協会・建設業振興基金に対し現在の状況及びアンケートの結果等について報告
  - ・ 6月16日～17日：東日本建築教育研究会・山形大会で報告（経過報告，アンケート集計結果，今後の予定等）
  - ・ 7月21日：平成6年度第1回資格取得検討委員会（経過報告，アンケート集計結果，要望書の提出について）
  - ・ 8月1日：西日本工高建築連盟との協議（第2回・東日本と西日本の状況報告，全国アンケート調査の結果について，要望書・会則・役員等の原案検討）
  - ・ 8月18日：建設業振興基金より模擬テスト実施計画等について指導を受ける
- b. 事業等
- ・ 5月：「建築施工技術者試験（仮称）に関するアンケート調査」を実施

## (2) 現 状

ア. 全国工業高等学校長協会を通じて，建設省，（財）建設業振興基金，（社）全国建設業協会へ要望書を提出し，資格の新設と試験の実施について検討をお願いしている。

イ. 平成6年12月頃に模擬試験を実施する計画の立案とその問題等について検討を行っている。

## 2. 全国組織「全国高等学校建築教育連絡協議会」の設立について

### (1) 経 過

東日本建築教育研究会は，西日本工高建築連盟等に対し高等学校建築教育の全国組織化を図る呼掛けを行ってきたが，各地区の高校建築教育研究会の発展過程や活

動内容も異なり、すぐに全国組織化することについては慎重な意見があった。

しかし、中央（国レベル）の関係諸機関に資格試験の新設等を要望する場合、要望書を提出する団体は全国組織名を冠していることが不可欠であることから、こうした資格の新設等の要望や、各地区の建築教育研究会の情報交換・連絡・調整という限られた内容だけを行う全国組織として早急に設立する必要がある。

そこで西日本工高建築連盟と協議しながら東日本建築教育研究会の事務局を通して全国各地の高校建築教育研究会に内容を連絡し、ご理解を得ながら全国組織の設立に向けての活動を行った。

- 第1回西日本工高建築連盟との協議会「3月31日（水）：「大阪府立西野田工高」
  - ・東日本建築教育研究会の松井（事務局長）と岡田（資格取得検討委員長）が西日本工高建築連盟の地区委員と懇談し、全国組織化に向けて共通理解を図り、今後の作業と役割の分担等について確認した。
- 西日本工高建築連盟総会への参加「5月21日（土）・・大阪倶楽部」
  - ・東日本建築教育研究会の岡田（資格取得検討委員長）が出席し、今までの経過報告と「建築施工技術者試験（仮称）に関するアンケート集計結果」について報告し、施工技術者試験への理解と全国組織の設立について協力を要請した。
- 第2回西日本工高建築連盟との協議会「8月1日（月）：東京都立葛西工高」
  - ・西日本工高建築連盟の国末（全国組織検討委員長）先生、前田（同副委員長）先生をお迎えし、東日本建築教育研究会役員と同資格取得検討委員会委員が出席して、建設省等への要望書の内容、全国高等学校建築教育連絡協議会の会則・細則・役員等の原案を作成し、模擬試験の実施等についても検討した。

この協議会には全工協の小川幸男先生にもご出席をいただきご指導を頂いた。

## (2) 現 状

平成6年9月6日（火）、「全国高等学校建築教育連絡協議会」の会則・細則、組織図、役員が決まり、高等学校建築教育の全国組織が事実上設立された。

## III 今後の活動

今年度は「建築施工技術者資格の新設」と「建築施工技術者試験の平成7年度実施」を実現させるために全力を傾倒したい。

この試験の実施に対する全国の建築系学科の先生の深いご理解や熱意と意欲は、5月に行ったアンケート調査で確認されているが、試験の実施までには解決すべき課題も多く、実施の有無は現在のところ未定である。しかし平成7年度に実施できることになれば学習指導計画の作成にも関わることから、試験の内容や方法をできるだけ早くつかみたい、という要望もある。こうした状況を踏まえ、平成6年度の早い時期にトライアル（模擬試験）を実施し、その模擬試験をとおして試験を支える関係諸機関と受験生の指導にあたる教員が、ゆるぎない資格とするための率直な意見を交換することが必要ではないかと考えている。

## 12. 岩手県工業高等学校建築教育の現況

岩手県立久慈工業高等学校 建築科長 外里 昌治

### 岩手県の工業高校建築科の概要

岩手県には、平成10年に創立100周年をむかえる県立盛岡工業高等学校をはじめ県立工業高校9校、工業系学科を有する高校が県立2校、私立4校の計15の工業系高等学校があり、このうち建築系学科を設置している学校は建築科が県立3校（盛岡工業高等学校・大船渡工業高等学校・久慈工業高等学校）、建設科が私立1校（専修大学北上高等学校）、設備工業科が県立1校（宮古工業高等学校）、及びデザイン・インテリア系学科が県立2校（盛岡工業高等学校・水沢工業高等学校）、以上の6校7科である。この7科で岩手県の建築専門部は構成されている。

岩手県では、工業教育発展のために盛岡工業高等学校に事務局を置く工業部会が中心となり、多くの研修会や生徒の学習成果の発表の場となる行事等を実施しており、また建築専門部としても毎年研究発表大会を開催し先生方の研究成果や各校の問題点等を発表し、研修を深めている。

### 工業部会関係行事

本年度40周年をむかえる岩手県高等学校教育研究会工業部会では、工業教育の発展を目的に毎年多くの行事を実施している。本年度計画されている行事のうち主だったものは、下記のとおりである。

#### ・工業部会総会並びに講演会

岩手県工業技術センター副所長河野隆年氏を講師に、『工業技術センターの役割と技術振興の方向（岩手ブランドを目指して）』との演題で講演会を実施。

#### ・岩手県産業教育フェア

本年度が第1回となる行事で、作品・研究発表、生徒体験発表、中学生進路相談コーナー等の内容で11月5～6日岩手産業文化センターを会場に実施予定。

工業部会としては、このなかでロボット競技大会（例年は11月上旬に各校の代表による競技会として単独開催）・工業クラブ研究発表会作品展示等を計画中。

#### ・工業教育研究協議会

『21世紀を見通した工業教育のあり方』を主題として、3部会（第1部会教育課程・第2部会学習指導・第3部会産業界との連携）で2年間の継続研究したまとめの発表。

#### ・岩手県計算技術競技大会

第12回となる競技大会で、全国大会の予選を兼ねて実施している。ポケモンを使用している学科では、競技には不向きで参加が難しいのではという話題提供もあったが、

例年規模（昨年度参加11校2チーム、選手96名）で実施の予定。

・工業クラブ研究発表会・作品展示会

県立黒沢尻工業高等学校が中心となり、本年度で第5回の実施となる発表会で、研究発表部門・作品展示部門・ポスター部門の3部門で行われる。研究発表部門及び作品展示部門は、各校で科内発表会・校内発表会を経て代表各1テーマを決定し各校の代表により平成7年2月7日（火）北上市日本現代詩歌文学館にて実施の予定。

**建築専門部の活動について**

建築専門部においても工業部会の活動・目的の趣旨に沿って、以下に示す各種の行事を実施している。

・研究発表大会

年度始めに共通テーマを設定し、各校でそのテーマに沿った研究を進め11月下旬頃発表会を実施している。ここ数年は、新学習指導要領に対応した研究が行われており、本年度も『新教育課程に対応した教科指導のあり方』を共通テーマに、課題研究・情報技術基礎等について研究が進められている。

・県内工業高等学校建築科生徒設計製図作品コンクール（昭和49年度より毎年実施）

岩手県公共建築設計監理協会の主催で行われているコンクールで、1～3学年それぞれの課題図面を各校1・2年は2点、3年は4点を選び提出し、2月中旬に審査および一般公開される。課題は1・2年生は実教出版株式会社発行の『建築設計製図』に基づく模写で、1年生は平家建専用住宅、2年生は昨年度までの生徒会館を変更し2階建専用住宅の模写、3年生は自由設計で実施している。

・各校各科の科展等

岩手県でも他の県同様に、各校各科で3年生の卒業作品を中心に、地域・中学生に対しての科紹介も兼ねて作品展示会を実施している。本年度予定されているものは次のとおりである。

平成6年11月11日～13日	第15回	専大北上高校建築設計製図展示会
平成7年1月28日～30日	第25回	盛岡工業高校デザイン科展
平成7年1月28日～29日	第15回	水沢工業高校インテリア科展
平成7年1月28日～29日	第2回	久慈工業高校工業展

以上が岩手県の現状であります。ご理解いただければ幸いです。今後も専攻科・総合学科の導入、生徒減への対応等々早急に対処しなければならない課題が多くあり、先輩各位からのご指導をお願い致します。

## 13. 千葉県工業高等学校建築教育の現況

千葉県立市川工業高等学校 佐藤 哲

### 1. 千葉県工業高等学校建築科の概要

千葉県には県立工業高校9校（内普通高校に併置：3校），市立高校（普通高校に併置）1校，私立高校3校（普通高校に併置）の計13校がある。この内建築科が設置してある学校は県立2校（内1校は定時制），私立2校の計4校である。平成4年度より県立工業高校の土木科が学科改編をして建設科となったので現在では建築系学科は5校になる。なお平成7年度より県立工業高校の土木科がもう一校建設科になる予定である。

#### ○ 県立市川工業高等学校

市川工業高校は昭和18年4月，市川市立工業高校として創立，昭和23年に県立に移管され，機械科，電気科，建築科，インテリア科の4科からなる。

県立高校の全日制で建築科は千葉県で1校しかないということで県全域から生徒が通学している。そのため卒業生も県全域にわたってそれぞれの分野で活躍している。

教育課程は普通教科52単位，専門教科38単位をもって編成されている。建築科では，平成6年4月にCAD41台が新しく設置され，社会の変化への主体的対応として1学年から3学年までの実習で有効に活用している。1学年では，情報基礎でBASICのプログラムを作りながら情報の取り扱い方，ワードプロセッサ，表計算，そして後半ではCAD製図を行いコンピュータ利用法を幅広く学習している。2学年では3班編成の実習で建築専用CADシステムを練習し，各自が考えた住宅のプランを立体化している。

3学年でも同様に3班編成の実習で2年次に続きさらに高度な操作方法を学び，入力作品をシミュレーションしながら完成度の高いものへ創作する作業はデザイン力のトレーニングにもなり生徒達も喜んで学習している。

#### ○ 県立茂原工業高等学校

茂原工業高校は昭和38年4月に開校され，電気科，化学工業科が設置，昭和45年に機械科，昭和47年に土木科が設置され，平成4年に土木科を建設科に転換，現在に至っている。建設科の特徴は2年次から希望により⑦建築コース，④土木コースに分けられ，基礎，基本の重視とともに情報教育に重点をおいている。平成6年度「課題研究」を試行しその中で7月25日から3日間「現場実習」を実施した。3年生41人を地元建築，土木，測量会社へ派遣し実習を体験させ効果を上げている。

#### ○ 県立葛南工業高等学校

本校は県立市川工業高等学校から，昭和48年4月に定時制工業高等学校として併置さ

れ独立校となる。設置学科は建築科，機械科（学年2クラス），電気科，の三学科で，4年制，16クラス編制である。定時制建築科は県下に本校しかない。

本校の地の利のよさ，施設設備の充実度の高さとりべらるな学習環境は隣接する都下の下町及び京葉工業地帯の勤労学徒や進路変更による中途就学者の建築勉学への重要なより所になっている。

○ 千葉工商高等学校

千葉工商高校は大正15年に財団法人関東中学校として開校され，昭和26年私立学校法により，学校法人関東学園と改称，昭和41年，学校法人千葉敬愛学園（敬愛大学，千葉敬愛短期大学，千葉工商高等学校，千葉敬愛高等学校，短大附属幼稚園）と改称現在に至っている。現在は，機械科，電気科，建築科，商業科，普通科の5科がある。建築科は1学年2学級，2学年，3学年は共に1学級で計4学級を置いており，教育課程は普通教科49単位，専門教科39単位をもって編成されている。建築科でもっとも力を入れているのは設計，製図である。建築に関する生徒の美的感覚と科学的分析力を育てることを主眼としている。

○ 千葉経済大学附属高等学校

千葉経済大学附属高校は昭和9年千葉女子商業学校として開校され，昭和23年学制改革により千葉女子経済高等学校（商業科），昭和29年千葉経済高等学校と改称，平成5年に千葉経済大学附属高等学校と改称し現在に至っている。現在は普通科，商業科，情報処理科，建築科の4科がある。

教育課程は普通教科57単位，専門教科33単位をもって編成されている。建築科では実習を重視し必要に応じて個別，あるいは集団で課外指導なども行っており，女子向きにインテリア関係科目を置いて指導している。

## 2 研究会，コンクールなどの現況

千葉県高等学校工業教育研究会（千工研）は昭和36年に発足し今年で33年目を迎える。千工研には，機械・電気・化学・建設の各部会があり，建設部会は建築科，建設科，土木科，インテリア科の4科で構成されている。当初は，県内工業関係8校の専門科教員百数十名の組織で，時代背景を考え「実力ある優秀な卒業生を業界に送るには，先ず教員自らが研修に積極的に乗り出さなければならない。」という機運の盛り上がりからスタートした。その一例として各部会ごとの生徒研究発表があり，県内各地から一堂に会して日頃の研究成果を発表しあい，製図作品については各学校を巡回展示するなどお互いが刺激され研鑽を積む姿は高い評価を受けている。それが昭和59年度より総合技術コンクールとなって年1回開催されることとなり生徒達が技術を競い合うよい機会を設けている。

現在は所属13校，会員三百数十名の所帯となる。その中で建設部会は小さな所帯ではあるが，部会の中に課題研究分科会と先端技術分科会を設け各校の意見交換をしながら研究協議を行い，またいろいろな講習会や見学会等で各学校の交流も深められている。



## 14. 富山県工業高等学校建築教育の現況

富山県立富山工業高等学校建築科 森田 眞正

今年には気象観測史上最高の暑い夏を経験し、ここ富山県でも 39.7°C を記録しました。この暑さの中、本県において平成 6 年度全国高等学校総合体育大会が県下の市町村を会場に大々的に行われました。人口 110 万人余りの小さい規模の県ですが、全ての競技を県内で行いました。また、県下の全高校生が一人一役運動で必ず全国高等学校総合体育大会の運営に関わっておりました。献身的な県民や高校生の協力・支援があって大会が成り立ったものと思われまます。

富山県における建築教育は全国的にみて特殊であると思われまます。工業科を設置している高校は 12 校があり、工業科単独校は 7 校あります。その中で建築科を設置している学校はわずかに全日制 2 校で、各校 1 クラスです。また、県内の大学、短大等の高等教育機関には建築科を設置している学校はありません。建築教育にとってはこの工業高校の 2 校は大変貴重な存在であり、重要な役割を与えられており、地元建設業界からの熱い期待が掛けられております。

その 2 校は富山県立富山工業高等学校と富山県立高岡工芸高等学校です。両校とも工業の単独校です。地理的にみて中央に呉羽山があり、その東の地域を呉東（ごとう）、西の地域を呉西（ごせい）と呼びまます。富山県立富山工業高等学校は呉東の中心校、富山県立高岡工芸高等学校は呉西の中心校です。両校とも歴史が古く、特に高岡工芸高校は今年創立 100 周年の記念すべき年に当たります。幾多の著名な工業人・芸術家を輩出し、各界で活躍されております。富山工業高校は幾つかの変遷がありましたが、創校 80 年を迎えようとしております。建築科は両校とも戦後に設置されております。

富山県は産学協力体制がしかれ、県内の主要企業が中心になり富山県工業教育振興会が組織され、工業教育を後援していただいております。毎年、工業教育振興会が主催する工業技術論文発表大会が行われ、発表者は海外技術見学旅行に参加できます。両校の建築科の生徒も「高齢者に優しい生活ユニット」や「木造 3 階建住宅の研究」で優秀な成績を納め海外技術見学旅行に参加し、大変貴重な経験をしております。

富山県では 3 年前より全国に先駆け富山県高等学校産業教育フェアが開催されております。工業科の生徒をはじめ職業教育を受けている生徒の作品を展示、即売、ロボットコンテスト、ファッションショー等を行い県民の皆さんに産業教育を理解して頂くよう、努力を重ねてきております。その努力が評価され、昨年第 3 回全国産業教育フェアが富山市で開催され、10 万人以上の全国の人々が来場されました。建築科の生徒も日頃の製図や透視図の作品の他に、「木材を主体としたハイブリット構造」実物模型（高岡工芸高校）や「開閉式屋根を持った富山新球場」（富山工業高校）と題して、雪国に必要な球場の提案を実際に開閉するコンピュータ制御の屋根を持つ 1/200 の模型とともに展示しました。両作品

とも大変好評で、中沖県知事や多くの県民の皆さんから高い評価を受けました。工業技術論文発表大会や産業教育フェアで発表の機会があることは生徒にとっては大変恵まれていることです。

建築科の生徒の特徴ですが、工業高校の他の学科の生徒と違い、目的意識が高いと思われます。志望者も多く推薦入試、一般入試とも高い倍率になっております。建築科の生徒の進路ですが、先生方の熱心な指導もあり、ほぼ全員建築関係の職場や上級の学校へ進みます。県内のゼネコンへ進む生徒が一番多く、次にハウスメーカー、設計事務所と続きます。県内の建設業界の要望に充分答えていると自負しております。ただ近年女子生徒が半数を占めるようになるにつけ、建設業界の女子活用を切にお願いします。県内の建設業界の方々からも夏休みの生徒の建設現場実習、話題に上った建築物の見学、建築科の生徒の母親と建設業の人々との懇談会等、ご支援を受けております。建築科の生徒と教師の関係も大変友好的です。建築科の卒業生もしばしば建築科の職員室を訪れます。県内の建築関係の情報も多く集まります。そのようないろいろな情報を求めて卒業生や建築業界の人達も建築科へ訪れてくれます。地域の建築情報の発信地の役割も担っております。また、建築科の卒業生や建築関係の人のため学校を利用し、建築科の職員のボランティアとして2級建築士受験講習会等を開き、地域社会に貢献をしております。

富山工業高校建築科で試みておりますCAD製図について述べさせていただきます。

1, 2年生は従来の製図をしておりますが、4, 5年前より3年生は全員コンピュータ室でCADで製図をしております。3年生は手書きの製図は一切しておりません。CADを使えば使うほどCADの素晴らしさが理解でき、これまでの建築製図教育をも根本から変える可能性を秘めた優れた教育機器であることが分かってきました。今後ともCADを大いに活用し、研究を続けていきます。

最後に本県の建築界に於ける職業教育は、高校2校2学級しかなく建築系高等教育機関もない状況の中で「中堅技術者養成」は今後も堅持しなければならない重要な課題です。

第3回全国産業教育フェア（平成5年11月）開閉式屋根を持った球場模型を見入る中沖県知事



## 15. 愛知県工業高等学校建築教育の現況

愛知県立一宮工業高等学校 寺島 豊

### 1 愛知県の工業高校建築科の概要

愛知県は、全国的にも、もの造りの一大中心地であるといわれる。県内には、工業高校23校（内定時制だけの学校が2校、全定併設校が6校）、名古屋市立3校（内定時制1校）私立8校である。この中で建築科の設置してある学校は、県立7校（内定時制1校）、名古屋市立1校、私立1校の合計9校である。

### 2 研究会、各校の活動状況

愛知県高等学校工業教育研究会には、10の部会があり、例年5月に総会が開かれ、2月には、総合研究大会（研究発表・講演等）が開催されている。各種競技大会として、計算技術・情報技術・製図・測量・マイコンロボット等の大会が行なわれている。また生徒の研究論文・作文・体験発表等及び顕彰・検定事業等も行なわれている。刊行物としては、「工研あいち」、会員名簿、「技術検定実施結果報告書」、各部会で「標準問題集」を刊行している。

建築部会としても「工研」の趣旨にのっとり、年2回の幹事会（各校の科主任）、年3回の研究会（建築部会のテーマに基づいて各校の実情にそって研究）を行なっている。第3回目には、まとめとしての発表、個人研究の発表、見学会等を行なっている。平成4、5年度には、「情報社会に対応する建築教育を求めて」と題して、各校「CAD実習」について研究・発表した。その結果、各校の現状・問題点・限界点、さらに今後のあるべき姿が浮き彫りにされた。（東海地区の建築科の「CADに関する施設・設備」では、県立学校として一番遅れているのではないだろうか。）この研究結果を「東海地区建築教育研究会」でも発表している。また、夏休みには、建築部会として見学会、講習会等を開いている。6月には、「建築構造建築設計認定試験」「建築製図技能検定試験」を行い、合格者には県知事名で合格証書を渡している。これとは別に計算技術検定試験、情報技術検定試験、危険物取扱者試験等々…の3種目以上（試験の難易度により2種目、1種目で該当）の合格者には、県知事の表彰（顕彰制度）もある。また建築部会でも「建築標準問題集」（建築構造、建築設計のみを扱っている。）を刊行している。

県内建築科職員の懇親会として「美建会」を年1回、部会の見学会または講習会の行なわれる日に開催している。

各校の活動としては、「課題研究の発表会」を校外の施設を借り、関係者を招いて行なう学校もあり、「課題研究実践記録」を製本して残すなど成果をあげ定着している。

ユニークな試みで、生徒の多様化に対応するため夏休みに希望者を募り「学習合宿」を泊りがけで行なっている学校もある。体育祭では、他校に見られない華やかさで競技・マスコット・応援・仮装の4部門にわけ総合優勝を競い、ことにマスコット部門は、毎年古建築の復元を実現すべく（本年は犬山城）実習の成果を見せる学校もある。文化祭では、

複数の学校で建築部の活動を始めとして古建築の復元、古い街並の再現模型等の成果もみられる。各校で生徒の現場見学（企業の現場見学、古建築、博物館、美術館等）、外部講師特別授業等も企画実施されている。生徒の多様化にともない、授業後の補習時間の増加している学校もある。女子生徒の数も増加傾向にある。生徒減少期に当り、各校とも中学生向けに懸命のPR活動に知恵を絞っている。特に中学生、保護者に向けて平成6年度から「愛知県産業教育フェア」も行なわれる予定である。この他中学3年生には「一日体験入学」を夏休みか、文化祭の日などに各校で行なっている。

昭和56年頃から県立の建築、土木科のある学校では、一括募集を行なっている。1年生は共通履修し、2年生時にそれぞれ建築科、土木科に分かれる。

東海地区建築教育研究会は、昭和51年に初めて組織化された。当時、三重県5校（定時制を含む）、岐阜県9校（同）、静岡県10校（同）、愛知県10校（同）の計34校で出発している。平成6年度現在は、各県定時制の廃止などで計29校（三重県5校、岐阜県7校、静岡県8校、愛知県9校）である。事務局は、各県持ち回りで、三重・愛知・岐阜の順で行なわれてきており、現在岐阜西工業高校に置かれている。毎年6月に事務局の置かれている県で理事会・総会（研究協議・見学会等）を行い、2月に各県持ち回りで研究協議会（研究競技・個人研究・見学会等）を行なっている。たとえば、平成5年度2月の研究協議会は、静岡県で行なわれ、各県によるテーマ毎の研究報告を行い、各県1名以上の個人研究発表を行なった。研究視察は、静岡県立美術館で行なわれた。三重県は、「西日本工高建築連盟」に属しているため、東日本とは異なった情報も入手可能である。各県相互に刺激を受けて、教員同志の励みにも成っている。東海地区工業教育研究会では、地元のテレビ局の援助も得て「東海地区ロボット競技大会」を開き、名古屋テレビでも放映され好評である。東日本建築教育研究会でもブロック化の提案がなされているが、各地区での活動の様子を楽しみに期待している。

### 3 将来の展望と今後の課題

各校の進路状況は、大体75%が就職、25%が進学である。私大へは、指定校推薦入学で極く少数でじり貧状態である。工業高校からも大学への門戸がもう少し広くなればと社会的にも、大学側にも理解されるように願ってやまない。職業高校生を受け入れてくれる公立大学（各県一大学）に入学できる道の拡大を切望している。それが現在の工業高校の問題点を解消させる突破口と考えるからである。幸いにして文部省が、来年度予算でこのことについて配慮がされると聞き、一まず安堵している次第である。生徒の減少期を迎えるにあたり、今まで以上に生徒一人一人が大切にされなければならないだろう。

職業高校への入り口、中身に関する問題には、我々の最大限の努力を払わなければならないのは、言うまでもない。

以上、愛知県の建築科の現況並びに将来の展望について述べたが、意を尽くせない点についてはご容赦願ひ、新しい建築教育について各校皆様方からのご指導を願ってやまない。

## 16. 事務局からの報告・ニュース

1. 今年の山形大会は、天童市内の滝の湯ホテルで行われました。大会運営は山形県下の先生方のご努力でスムーズに進められ、各会議とも内容の深い充実した大会でした。山形県下の先生方には、大変お世話になりました心よりお礼を申し上げます。

今大会で、先生方から出されたご意見をこれからの本会の発展に役立てたいと考えておりますので、今後ともよろしくご指導、ご協力のほどお願い申し上げます。

なお、不参加校への大会資料の送付について、米沢工高の先生方には本当にご迷惑をおかけしました。あらためてお礼を申し上げます。

2. 平成6年度の夏期研究協働会は、製図分科会の主催で、7月26日から28日までの2泊3日で新潟県六日町にある私立関東第一高等学校の白銀山荘で行われました。参加者は、この夏の異常な暑さにも負けず、ログテーブルの製作に真剣に取り組んでおられました。事前の準備と実技指導をして下さった関係の方々に暑くお礼を申し上げます。

来年度は、計画分科会が主催で、現在、川越市を開催予定地として計画中です。

3. 9月6日(火)都立葛西工高で常任理事会が開かれましたが、今回より次期開催県の千葉県立東総工業高等学校長大仁田拓三先生、次々期開催県の愛知県立起工業高等学校長杉田博先生、都立江東工業高等学校長佐藤賢吉先生にもご出席をいただきました。

次回は12月5日(月)同じく都立葛西工高で行われます。

4. 「建築施工技術者」試験の実施に向けて、全国組織を結成し努力をしているところです。この実現と成功のため、各先生方の絶大なるご理解とご協力のほど心よりお願い申し上げます。

近々、2級施工管理技士試験問題をアレンジしたプレテストを実施いたしますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

5. 今年の総会でお話しした会費値上げの件につきましては、主査会及び常任理事会で検討致しましたが、他の研究会の会費との比較などから会費値上げは難しいので、とりあえず、広告等を広げて行くことでやり繰りして行くことになりましたのでお知らせ致します。

6. 常任理事会に出席された高崎格先生(札幌工高)からの報告で、北海道の建築教育研究協議会が、11月29・30日に開催されます。理事会からは甲府工高の天野喜幸先生が代表で出席される予定です。

7. 資格取得検討委員会の馬場彦吉先生(郡山北工高)が、事情によりやむなく委員を辞退されましたのでお知らせします。

8. 平成6年度の賛助会によるご援助は、建築資料研究社、建築施工管理技術研究会、(株)クレス東京、東京デザイン専門学校の各社よりいただきました。大会のための本部事務局準備費及び製図コンクール運営費等に活用させていただきます。各社には厚くお礼申し上げます。

## 平協6年度の会員名簿の追加・訂正

- 目次 P(3) 72 11-04 県立谷田部高等学校  
県立谷田部工業高等学校を 県立谷田部高等学校に訂正
- P 3 6. 常任理事  
安藤 允治(安田学園)を 安藤 允浩(安田学園)に訂正
- P 3 7. 都道県理事  
富山 岩井 忠(高岡工芸)を 森田 真正(富山工)に訂正
- P10 函館工業高等学校  
後藤先生 後藤和明に訂正
- P22 仙台工業高等学校  
平 孝幸 住所 古川市李坪字前田 284-6に訂正
- P37 高崎工業高等学校(定)  
樋口 元朗 住所 高崎市を 前橋市に訂正
- P39 館林商工高等学校  
校長先生 馬場 利宗に訂正
- P44 谷田部高等学校  
担当科目 イはインテリア装備 竹中先生の計は インテリア計画
- P71 高岡工芸高等学校  
河波 昇を 河波 昇に訂正
- P83 碧南工業高等学校  
先頭に追加  
教頭 長谷川幹雄
- P90 歴代理事長・会長  
2代 中江 斉先生 平成6年2月25日逝去  
12代 松村 篤躬先生 平成3年5月20日逝去

## あとかき

おかげ様にて「建築教育ニュース」1994年号ができました。  
昨年設置されました資格取得検討委員会も、委員会報告として掲載いたしました。  
教育活動にお忙しい中で、ご執筆いただきました先生方有り難うございました。

1994. 11

編集委員会

編 集 編集委員会 古賀（東工大附工） 遠藤（日工大付東京工）  
菊池（市川工） 鈴木（葛西工） 大間（関東第一高）  
発 行 東日本建築教育研究会 （代 表 吉村 義弘）  
事 務 局 東京都江戸川区春江町4-9 TEL 03-3653-4111  
都立 葛西工業高等学校（事務局長 松井 貞二）  
編集事務局 東京都江戸川区松島2-10-11 TEL 03-3653-1541  
関東第一高等学校 （大間 俊彦）